

2009年度賃上げ交渉妥結にあたっての見解

本日、中央本部は2009年度の賃上げ交渉について会社との激しい議論を積み上げ、“ベアゼロ”という苦渋の決断をした。

今、09春闘は昨秋のリーマンショックに端を発した世界的な大不況下で、業績悪化による聖域なきリストラに突き進む経営側の「派遣切り」「正社員の削減」などが相次ぐ中で、連合は8年ぶりにベア統一要求を掲げ闘いを挑んだ。

しかし、自動車・電機などの主要労組は“ベアゼロ”はもとより一時金の減額や定期昇給凍結など実質賃下げや、非正規も含めた雇用の確保も具体的成果を上げられないまま総崩れとなった。

会社側は今春闘において特に2月以降の収入の大幅な落ち込みをはじめとして今年度と来年度も大幅な減収が見込まれることや、日本経済の先行き不透明感と高速料金の割引や成田新ルートの開業など、経営環境の悪化を理由に組合要求には応じられないとする頑なな姿勢に終始した。それに対し本部は、「収入の落ち込みはあるにせよ、2000億円を超える経常利益がある」「役員報酬や株主配当は上がっている」「1兆5189億円の内部留保金もある」また、「信濃川発電所問題で信頼回復に一丸となって取り組むためにも社員にその姿勢を示すべき」と主張し、ねばり強い交渉を繰り返してきたが、世間相場を打ち破ることはできなかった。

しかし、その一方で“ベアゼロ”とはいえ定期昇給確保と夏季手当2.85ヶ月に加え、35年勤続者表彰を18万円から20万円へのアップ、定期昇給のない55歳以上の組合員に定額2万円の支給、グリーンスタッフの精勤手当に定額2万円の増額支給を勝ち取ることが出来た。また、正社員化の制度化を求める署名42,240筆を会社に提出し、正社員化の合格率アップと制度化への道を切り拓くための議論の場を確認するとともに、派遣社員800名の「途中解雇」をしないことなど、雇用の安定の道筋についても確認した。

このように、日本社会が弱者切り捨ての方向に進む中、定期昇給のない55歳以上の組合員やグリーンスタッフに対する手当増を勝ち取ったことは、正規・非正規を問わずJR東労組の旗の下に組合員が結集し、共にたたかい抜き連帯を強化した証左でもある。引き続き私たちは課題であるグリーンスタッフの正社員化の制度化実現に向け、生存権を堂々と掲げてたたかいを強化していく。

今春闘で本部に対し、500機関を超える激励・檄布・檄ファックス等が寄せられた。また、各地方でも春闘集会が開催され文字どおり組織一丸となって09春闘を闘い抜いた。しかし、“ベアゼロ”の壁を打ち破れなかったのも事実である。私たちは、日本労働運動の否定的状況を克服していくために労働三権も含めた今春闘の総括議論を巻き起こそう。勝ち取った組織の団結力をさらに強め、「安全・健康・ゆとり・働きがい」ある職場を創り上げよう。そして、美世志会の控訴審勝利・職場復帰をかちとるために、全組合員でたたかおう！

あらためて2009春闘を職場からつくり出した全ての組合員・家族の皆さんに感謝を申し上げると共に、現在も要求獲得のために奮闘しているJR東日本労連の仲間たちに支援・連帯を表明し、中央執行委員会の見解とする。

2009年3月26日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会